

仙台陣屋かわら版

第七十七号

(平成二十三年七月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: jinya@town.shiraoi.jp
〒059-0911 白老町陣屋町六八一 TEL&FAX 0144-85-2666 仙台藩白老元陣屋資料館発行

平成二十三年度資料館特別展 「荒波を越えてく備えと支え」展が 開幕します

七月十六日(土)より、平成二十三年度の陣屋資料館特別展が始まります。道内では函館市立中央図書館や仙台藩の出張陣屋が築かれた厚岸町から、また道外では青森県立図書館や県立郷土館などから貴重な資料を借り受け、八月三十一日(日)までの開催となります。スタートまですでにひと月を切り、目下全力で準備中。今年は三月の大震災で被災した仙台市との、歴史姉妹都市提携三十周年となる節目の年でもありますので、いつも以上に印象深い展示会にしたいと思っています。どうぞ楽しみにお待ちしております。

ところで今年の展示会ですが、タイトルにもあるように海が重要なテーマとなっています。近世の北海道と本州をとき結び

つけ、ときに縁遠い存在としていたものが、まさに白波が荒々しく逆巻く海洋でした。松前藩がアイヌ民族との交易権を独占していた頃は、藩の許可なくして和船の往来は許されず、そのため本州と北海道への航路も限定的なものでした。後年、幕府が直接蝦夷地へ乗り出してから箱館港の重要性が高まりましたが、いずれにしても津軽海峡は全国でも有数の難所でした。船も現在ほど頑丈なものではありませんでした。莫大な富をもたらした交易はもちろん、藩士達が蝦夷地へ向かうときにも、この一見すると僅かな距離に思える海峡が、大きな障害となつて横たわっていたのです。加えて藩士の蝦夷地出兵が、それまで連続と続



〈津軽海峡の荒波にほんろうされる北前船を描く「三厩渡荒並溝並松前城下市中之図」北海道大学図書館蔵〉

けられてきた物資運輸のための航路開発と密接に関わっていることも見逃せません。江戸幕府という、新たな政治体系の成立と人口集中地の新設が、東北諸藩に食料の供給を求めようになつたからです。いわば、仙台藩土の出兵はそれ単独のものではなく、海運の発達と商船の往来を欠かせない要素として成り立っていました。

“渡海”という、現代の生活では想像もつかないほど大きな問題。そして幕府による蝦夷地直轄や近世期に躍進した交易が行われるためには避けては通れない、克服すべき困難でもありました。「大変だった」ということは漠然と知っていても、それは現代に生きる私たちには経験できない事柄です。例えば厚岸町には現地の請負商人山田文右衛門などが、漁や航海の安全を祈り奉納した絵馬が保存されています。また青森県立郷土館や函館市立中央図書館からは、可能な限り危険性を除くために描かれた航路図を拝借することができました。こうした実測的な資料や護符などの信仰的な資料



〈東蝦夷地の場所請負商人 山田文右衛門が厚岸神社に奉納した絵馬 厚岸町教育委員会蔵〉

に触れることで、まさに様々な手立てを施しながら蝦夷地を訪れていた人々の息遣いなどを感じていただければと思います。

夏休みの思い出作りに、是非ともご家族揃ってお越しください。お待ちしております。

赤松の支柱交換が終わりました

前号のかわら版では、陣屋資料館友の会より史跡の赤松整備基金として、「赤松せんべい」の売上二十万円が寄付されたことをお知らせしました。史跡の生き証人を守るため、積極的にせんべいを購入してくださった方々のご厚意に支えられ、四日間にわたった赤松の支柱交換も無事に完了しました。これで支柱は二代目となりま



支えてきました。が、吹き曝しの史跡では想像以上に痛みが進んでいました。二代目は耐久性を高めるために材質をカラマツに変え、本数も増やしました。友の会のご厚意はもちろん、様々な形でご協力くださった方々に、心より感謝申し上げます。また史跡の赤松を守るため、今後とも変わらぬご支援をお願い致します。

教育旅行で学芸員を体験

【職業体験教育旅行】……何とも聞き慣れない響きですが、要するに職業体験と修学旅行を合体させた企画です。道内各地の中学生を対象に、白老の産業や文化を実際に体験しながら学んでもらう事が主旨。五月三十一日には小樽市の銭函中学校から十四人が、六月一日には札幌市から東栄中学校から二人が、陣屋資料館へ学芸員の仕事や白老の歴史を学びに訪れてくれました。他にも多数の受け入れ施設があるなか、改めて資料館を選んでくれるなんて何とも嬉しい話です。

一方、体験内容の構成にはかなり悩みました。何といっても歴史資料館であることに加え、まだ幕末は授業で習っていない範囲とのこと。この部分の解説を省くわけにもいかず、だいたい資料館の説明に時間を割いてしまいました。多少なりとも楽しんで

貰えたのなら幸いです。煮込みが甘かったのも事実です。二時間という決して多くない時間のなかで、もっと効果的に資料と触れあえてもらえよう、構想を練り直しておきたいと思えます。今回、資料館を選んでくれた皆さん、また白老を訪れることがあったら是非、資料館にも遊びに来てください。



【展示解説も史跡管理も学芸員の大切なお仕事！】

（左：史跡を巡る、札幌東栄中学校の生徒さんたち 右：真剣にメモを取る、小樽銭函中学校の生徒さんたち）

「仙台陣屋かわら版 第七十七号 平成二十三年七月号」
発行日：平成二十三年六月二十一日（火）
発行所：仙台藩白老元陣屋資料館 担当者：平野・干場